

貴志南っ子

5月

平成31年4月26日

人として

◇平成31年度がスタートして3週間がたちました。先日の授業参観・学級懇談会・総会に際し、ご多用のなか、ご参加いただきありがとうございました。

◇先週、スポーツ界のアカデミー賞と呼ばれる「ローレウス・スポーツ賞」で、最も躍進した選手に贈られる「ブレイクスルー賞」をテニスの大坂なおみ選手が日本人としては初めて受賞しました。また、時を同じくして、アメリカの有力誌「タイム」の「世界で最も影響力のある100人」にも選ばれました。4大大会のうち2大会を制覇したことに加え、「正直者で礼儀正しく、自分らしくいることにこだわりを持っている人」だからとの報道がありました。

◇彼女が、まず優勝したのは昨年全米オープンで20歳の時でした。決勝の相手は女王として君臨していたアメリカのセレナ・ウィリアムズ。完全アウエーの中、優勢に試合を進める大坂選手に対し、セレナはコーチングを受けたり故意にラケットを折ったり審判を侮辱したためのペナルティを課せられ、結果的に敗戦を喫しました。審判の厳しさに対する大観衆のブーイングは止むことなく、勝利を収めた大坂選手の表彰式になってさえ、前代未聞の異様な荒れた空気でした。中継を観ていた日本人は、私と同様にきっとやるせない思いだったことでしょう。

◇優勝スピーチは、顔をバイザーで隠す大坂選手をかばい、寄り添ったセレナがブーイングをやめさせるところから始まりました。涙につまりながらの大坂選手の優勝スピーチは、自分の勝利よりも観衆やセレナへの思いやり・感謝があふれる内容だったため、それまで判定や結果に対し怒り心頭の空気を包んでいたスタジアムが、水を打ったように静まり返り、なかには涙する人もいました。



◇のちに、大坂選手が日本人である母親に日本流にしつけられて育ったことを知った人々は「良いプレーだけでなく、よりよい教育の勝利」と悟ったといいます。

◇折しも、3年生～6年生は、この4月より英語専科の先生やALT(外国語指導助手)に英語の指導を受けているところです。元号が改まったり、オリンピックが近づいたり、大阪万博の話題が上ったりする中で、今後、「日本」や「世界」を意識する機会が多くなることでしょう。そして、上記のような感動的な振る舞いやコメント、ドラマチックな場面に出会う機会も多くなることでしょう。そんな一コマが、子どもたちに「人として自分はどうなりたいか」を考えさせる機会になりますように…。

< 学校長 >

★貴志南小学校では、ホームページを設けています。<https://www.wakayama-wky.ed.jp/kishiminami/>
※写真等は児童個人を特定できないように配慮しています。